

第 3 章

基本理念

3-1 基本理念の考え方

世の中の潮流を踏まえると、函南町の将来は、高齢者や子育て世代の人々が安心して暮らせ、すべての町民が快適で住み続けたいことが求められています。

また、今後の町には様々な交流機会が増えていくため、これらの機会を活かし、町外の人々が訪れたい魅力あるまちづくりを行うことが重要であり、基本理念と施策大綱に反映します。

3-2 基本理念

第六次総合計画では、大きく変貌しようとしている日本の中で、町民が安心して快適に生活でき、町を訪れる方も町の活力を感じるよう「環境・健康・交流都市 函南（住んでよし 訪れてよし 函南町）」と定めます。

第五次総合計画では「環境・健康」をテーマに施策を進めてきましたが、今後は道の駅をはじめとして町内外との交流機会が飛躍的に向上することが期待されます。また、各種の課題の解決には町内のコミュニティによる交流が不可欠であり、「交流」をキーワードに加え、さらなる町の発展を目指します。

環境・健康・交流都市 函南

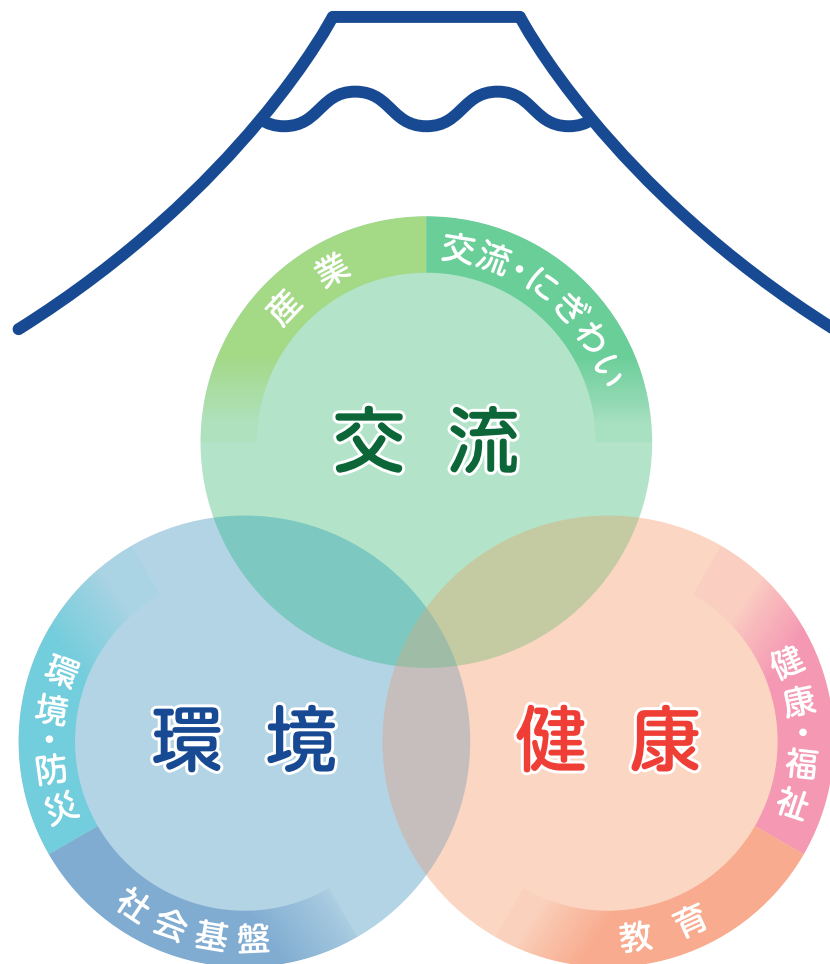
～ 住んでよし 訪れてよし 函南町 ～

参考 これまでの計画の基本理念

明るく、豊かな町づくり	昭和45年（1970年）、第一次総合計画
明るく、住みよい、豊かな町	昭和55年（1980年）、第二次総合計画
安全で快適な田園都市かなみ	昭和61年（1986年）、第三次総合計画
快適な環境で文化を創造する町・かなみ	平成4年（1992年）、第三次総合計画・後期計画
快適な環境、創造性豊かな都市（まち）・かなみ	平成9年（1997年）、第四次総合計画
快適な環境で安心して暮らせるまち・かなみ	平成19年（2007年）、第五次総合計画

3-3 基本理念に定める6つの柱

基本理念を踏まえ、町の施策大綱は、「環境」「健康」「交流」の3つの政策分野を設定し、各分野の施策の柱として「環境・防災」「社会基盤」「健康・福祉」「教育」「産業」「交流・にぎわい」を掲げます。



環境・健康・交流都市 函南

政策分野1 環境

環境・防災

快適に安心して暮らせる
環境づくり

社会基盤

コンパクトで効率的な
都市づくり

政策分野2 健康

健康・福祉

誰もが生き活きと暮らせる
健康づくり

教育

生涯にわたる学びを支える
教育・文化づくり

政策分野3 交流

産業

活力とゆとりを生み出す
産業づくり

交流・にぎわい

魅力とにぎわいのある
交流づくり

3-4 将来の土地利用構想

3-4-1 都市構造の現況と課題

- 町の総面積65.16km²のうち、山林をはじめとした自然的土地利用が約6割を超え、限られた可住地を都市的土地利用として有効活用・高度化していく必要があります。
- 山林や農地の荒廃を防ぎ、自然環境の保全が必要です。
- 高齢化が進んでいるため、自家用車による移動のみでなく、公共交通を確保することが必要です。

3-4-2 将来の土地利用方針

山間地域

- 荒廃した山林の再生を推進し、自然環境の保全に努めます。
- 地区の特性に応じ、周辺地域との調和を図りながら、自然環境資源の有効活用を推進します。

丘陵地域

- 農業後継者の減少による遊休農地等の土地の有効利用を図ります。
- 計画的で良好な宅地供給を推進します。

平坦地域

- 広域幹線道路の整備に対応した適正な土地利用の誘導を図ります。
- 市街地内の基盤整備の充実を図ります。
- 少子・超高齢化社会に対応した安全で安心なまちづくりを推進します。

3-4-3 拠点形成の考え方

コンパクトな都市構造を活かして

- 駅周辺等都市的土地利用を図る地域への都市機能集積や新産業誘導を図ります。
- JR函南駅、駿豆線伊豆仁田駅、道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」を、にぎわい生活交流拠点に位置付け、交流づくりの核として多面的な機能を形成します。

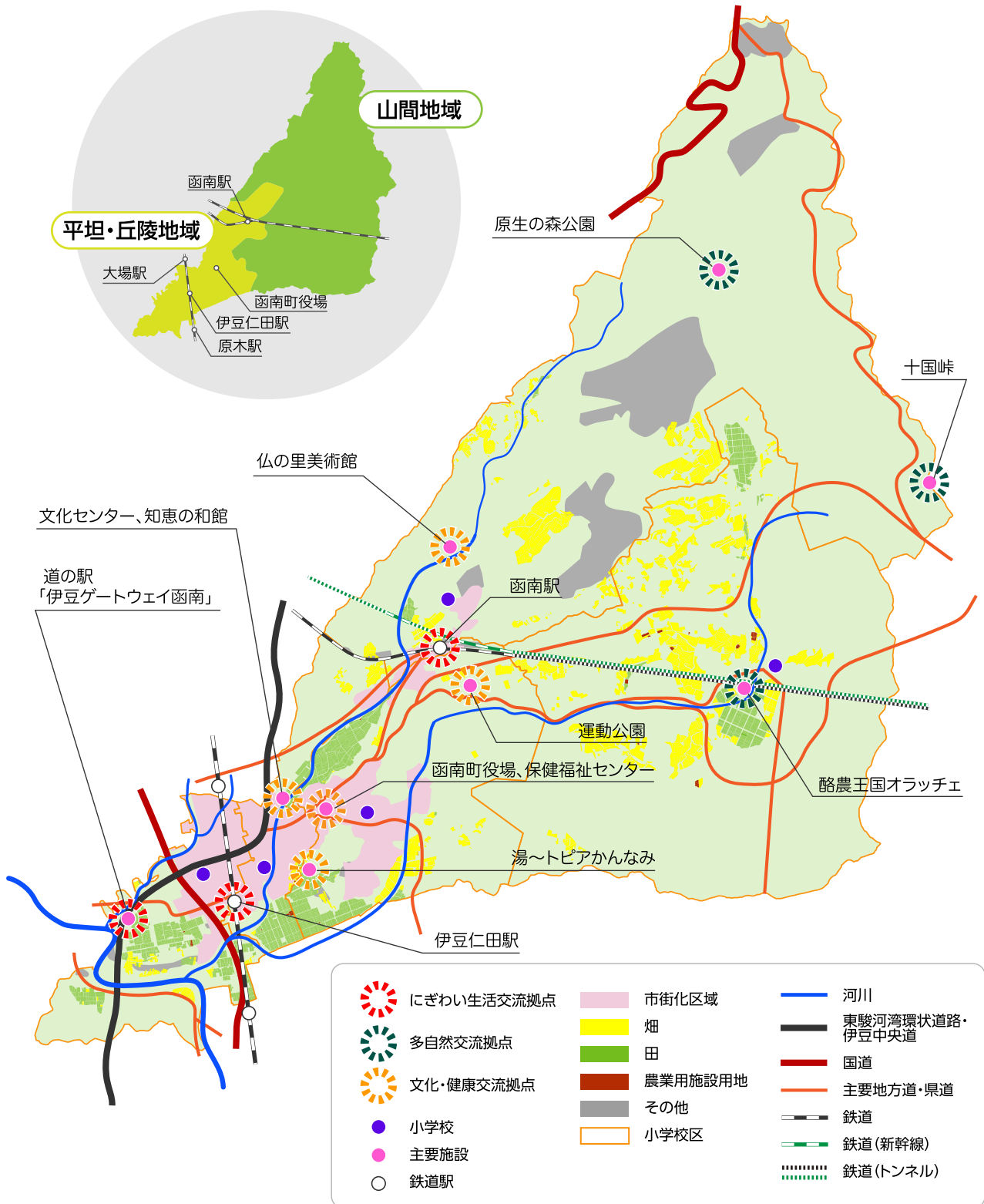
良好な自然環境を活かして

- 豊かな自然環境資源と周辺地域との調和を図ります。
- 酪農王国オラッチェや原生の森公園等の地域資源を多自然交流拠点と位置付け、良好な自然環境を保全し、地域内外の交流づくりを図ります。

多様な地域の個性を活かして

- 町内の文化健康施設を活用し、町民の健康増進や文化の醸成を図ります。
- 仏の里美術館、知恵の和館、運動公園等の施設を文化・健康交流拠点に位置付け、町民誰もが快適に暮らせるよう、地域間の連携を図ります。

函南町土地利用構想図

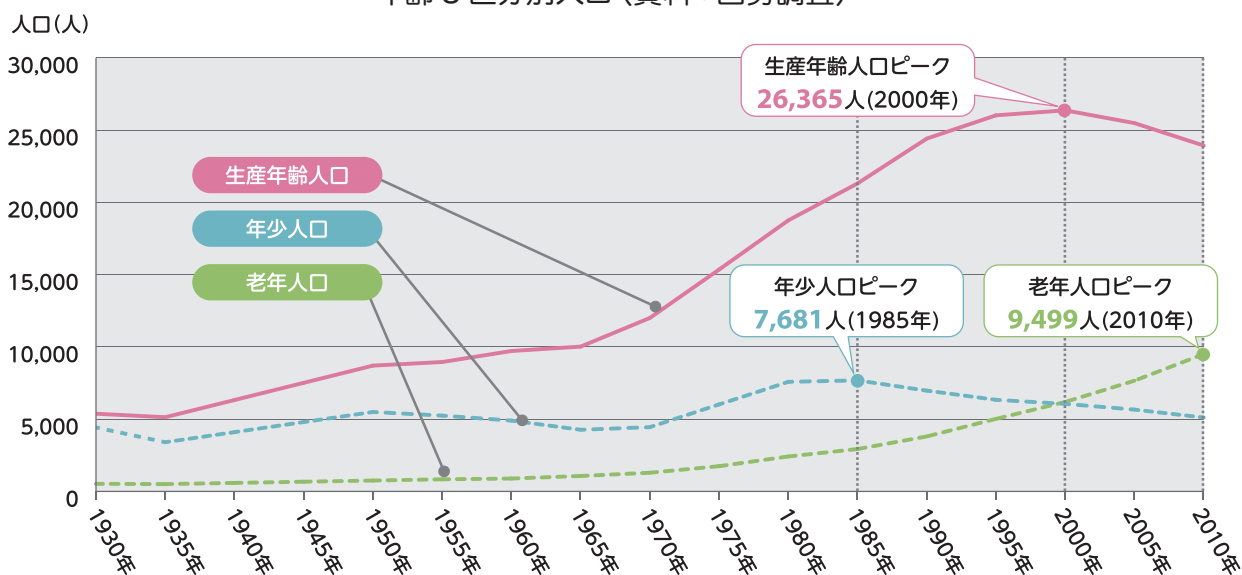


3-5 将来人口

3-5-1 町の人口の長期時系列推移

生産年齢人口(15歳以上65歳未満の人口)は、平成12年(2000年)の26,365人をピークに減少に転じています。また、ほぼ同時期に年少人口(15歳未満の人口)と老年人口(65歳以上の人口)が逆転し、年少人口は減少に転じています。老年人口は昭和45年(1970年)以降、増加傾向にあり、現在の高齢化率は約30%となっています。

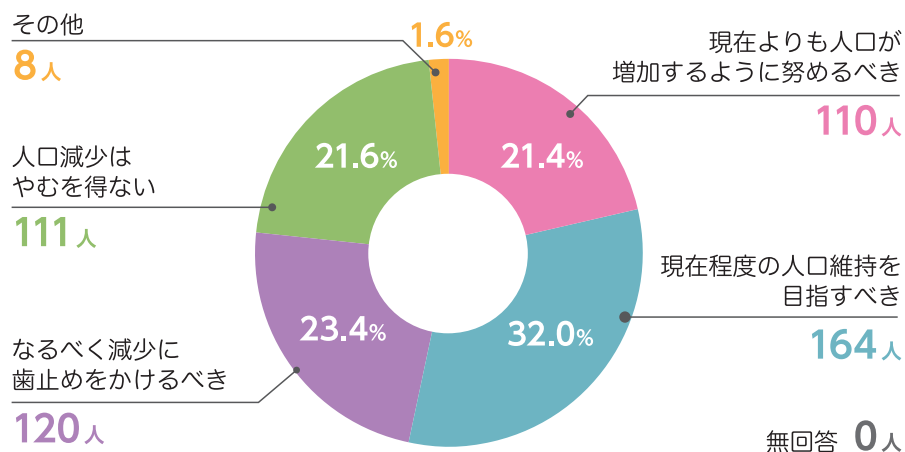
年齢3区分別人口(資料:国勢調査)



3-5-2 町の将来人口についての町民意識

町の将来人口についての町民意識調査では、「現在程度の人口維持を目指すべき」が最も多く、「なるべく減少に歯止めをかけるべき」が次に多い結果となりました。

町民意識(資料:平成27年(2015年)に行った町民アンケート)

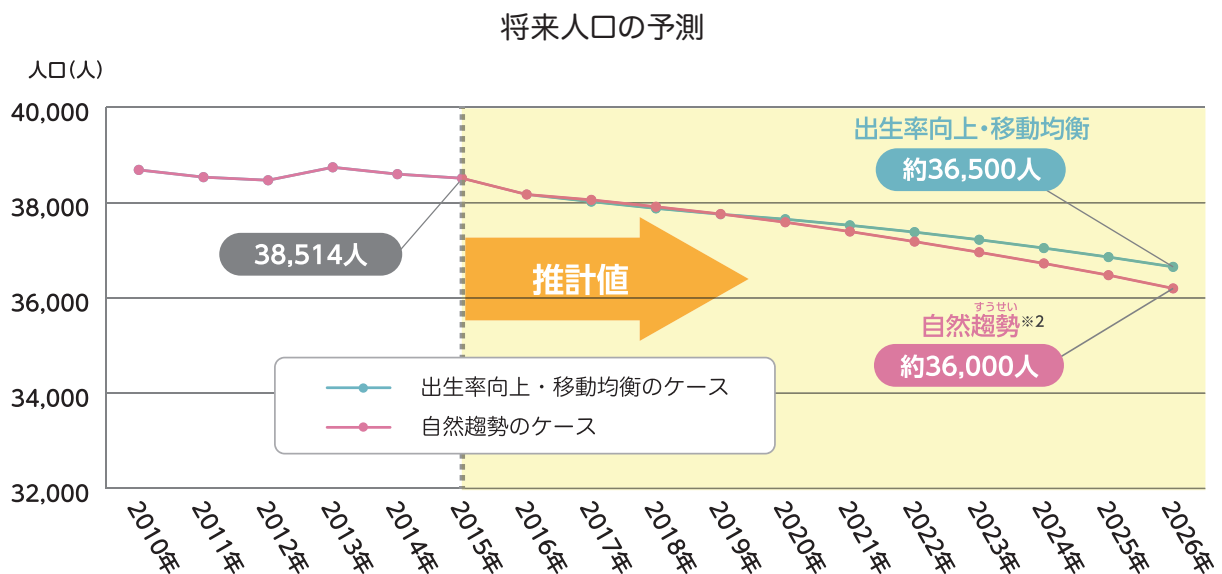


3-5-3 将来人口の予測

平成27年(2015年)に町では、長期的な人口を展望した「函南町人口ビジョン」を策定しています。人口ビジョンでは、国立社会保障人口問題研究所の推計に加え、町の人口に影響を与える社会移動や出生率等を仮定した推計を行っています。

この人口ビジョンをもとに、住民基本台帳に登録されている人口によりコーホート要因法^{※1}を用いて1年間隔で推計を行いました。

その結果、令和8年(2026年)には約36,000人になる見込みとなりました。



3-5-4 将来人口の設定

- アンケート結果より、人口減少に歯止めをかけ、現在程度の人口を維持していく必要がある。
- 理想の子ども数を持てる社会づくりをしていく必要がある。
- 人口社会移動の面では、町民の約7割が定住を希望しており、町外からの転入希望については約3割ある。

人の転出を抑制し、転入を促進するための方策や、人口増加に関する出生率向上のため、結婚・出産・子育てに関する総合的な取り組みを行います。

将来人口は、36,500人と設定します。

※1 コーホート要因法：年齢別人口について「自然増減」（出生と死亡）および「純移動」（転出入）という二つの「人口変動要因」それぞれについて将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法

※2 自然趨勢^{すうせい}：人口が現在の状態のままで推移し何も対策を講じない場合の推移